ひろしま（1953）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 104分
初公開日 1953/10/07
公開情報 北星

【解説】
長田新の『原爆の子』を八木保太郎が脚色し関川秀雄が監督した反戦映画。8万人を超す広島市民がエキストラとして参加し、原爆投下直後の広島を再現した。ベルリン国際映画祭で長編劇映画賞を受賞した。
広島にある高校。北川が受け持つ三年生のクラスで、生徒の大庭みち子が鼻血を出して倒れた。それは原爆による白血病が原因だった。このクラスでは、実に三分の一の生徒が被爆者だったのだ。あの日、ゆき子の姉は疎開作業中に被爆し、川の中で絶命した。遠藤幸夫の父親は、建物の下敷きになり炎に包まれた妻を助けることができなかった。原爆投下から七十五年は草木が生えないといわれた広島に大根の芽が出たとき、人々はその芽に希望を見いだしていた。

【クレジット】
監督 関川秀雄
製作 菊地武雄
伊藤武郎
原作 長田新
脚本 八木保太郎
撮影 中尾駿一郎 Shunichiro Nakao
浦島進
編集 河野秋和
音楽 伊福部昭
出演 岡田英次 Eiji Okada
原保美
加藤嘉
山田五十鈴
月丘夢路
岸旗江
利根はる恵
神田隆
薄田研二
三島雅夫

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.